

授業で使える当館所蔵地図

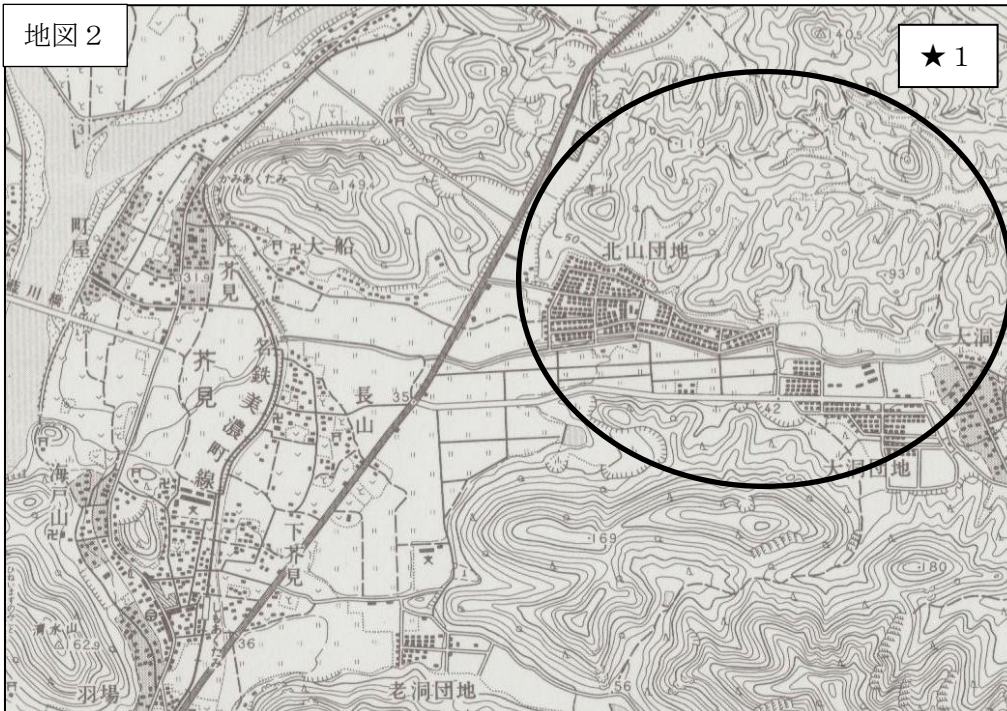
No. 91 地図1：『地図で見る岐阜の変遷Ⅲ』、地図2：『地図で見る岐阜の変遷Ⅳ』、
 地図3：『地図で見る岐阜の変遷Ⅴ』、地図4：『2万5千分の1地形図「岐阜北部」』
 作成年：地図1：1947（昭和22）年、地図2：1970（昭和45）年、地図3：1994（平成6）年、地図4：2018（平成30）年
 サイズ：地図1・2・3：54×78cm、地図4：42×52cm
 作者：地図1・2・3（一財）日本地図センター、地図4 国土地理院

地図1



★1 大洞団地の造成
 大洞団地は 1941～1970(昭和 41～45)年に産業発展に伴う住宅不足の解消を目的に作られた。住宅用地を確保するため山麓を利用していたことや団地を拡大するため山の斜面が削られて用地が確保されていることが異なる年代の地形図を比較することで読み取れる。入居者のほとんどが岐阜市やその周辺から移り住んできており、団地内での人の入れ替わりは長期間住み続ける人とある程度の期間居住して転居する人に二分化されている。現在は高齢者の割合が非常に高い。

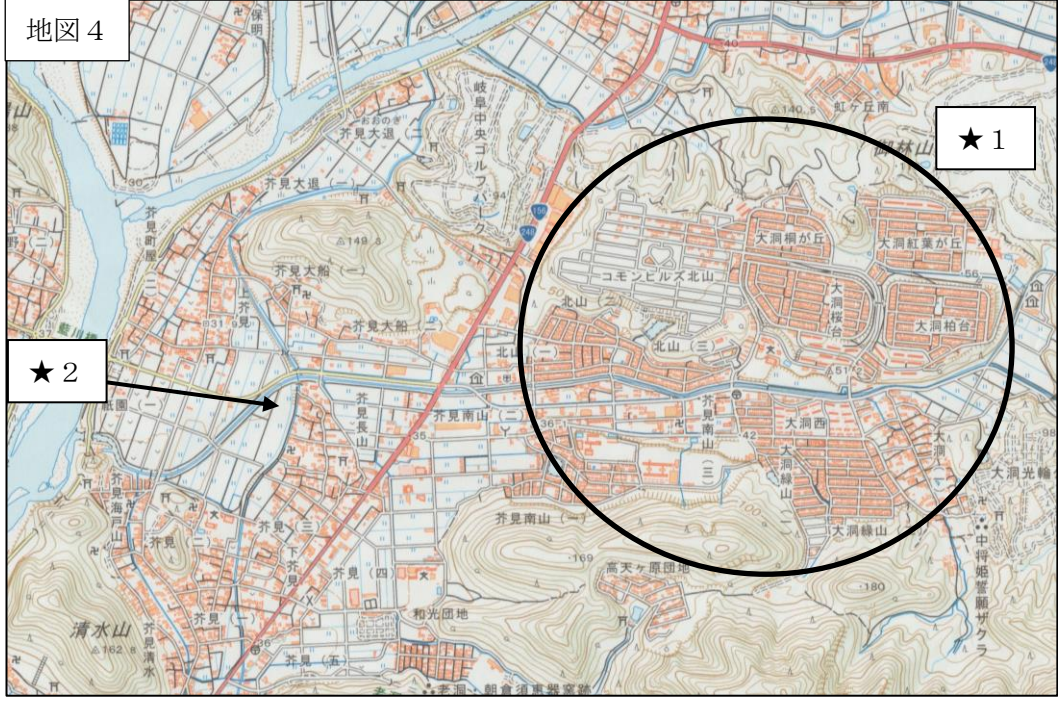
地図2



★2 名古屋鉄道
 美濃町線
 美濃市方面から関市、名鉄岐阜駅を結ぶ鉄道。美濃市から名鉄岐阜駅に向かう際には途中で乗り換えが必要だったが、1970（昭和 45）年に田上線が整備され、乗客は美濃市方面から名鉄岐阜駅まで乗り換えなしで向かうことができるようになり利便性が向上した。モータリゼーションの影響による利用者の減少で2005（平成 17）年に廃線となった。

【解説】

地形図は、土地の高低を平面図上に等高線を用いて表すとともに、海岸線、川、岸など狭義の地形、およびその名称を表記する。同じ地域のおよそ20年ごとの異なる年代に作成された地形図を比較することで道路・鉄道網の変化や住宅地の開発など様々な街の変化を読み取ることができる。



【用語について】

○モータリゼーション
 自動車一般の人に普及することによって自動車に依存した生活と社会が進展すること。日本でも20世紀後半ごろから始まった。特に地方圏では自動車への依存度が高くなるので、過疎化が進む地域ではバスや鉄道の路線が廃止され、高齢者や高校生などの交通弱者の生活に影響が出る。

○団地
 日本が戦後復興を終えて高度経済成長期に入り、住宅需要が拡大した。住宅用地の不足を解消するため日本各地に団地が造成された。都市中心部は地価が高く、住宅用地の確保が難しかったことから団地は都市郊外に造成された。現在、団地は建物の老朽化や少子化などの課題に直面している。

【利用の例】

○地理総合では生活圏の調査と地域の展望を扱う単元で、地理探究では日本の都市・居住問題を扱う単元での学習に活用できる。

①団地の造成と拡大

- 地図1・2を比較し、団地が形成されたことを読み取る。
- 地図全体から市街地と団地の地理的距離を読み取り、団地が郊外に造成された理由を考察する。
- 地図3・4と比較し、団地の拡大が落ち着いたことを読み取り、居住地域の移り変わりを考察する。

②交通手段の変化

- 地図3・4を比較し、名鉄美濃線が廃線になったことを読み取る。
- 鉄道沿線に団地があるにもかかわらず鉄道利用者が減少し、廃線となった理由を考察する。

③現在の団地の課題を考察する。

- ①、②を合わせて現在の団地に居住する人々の生活を考慮し、団地が抱える課題を考察する。